

薬草園だより

オトギリソウ科の花



「セント・ジョーンズ・ワート」 和名：セイヨウオトギリソウ

生薬名：小連翹(ショウレンギョウ) 薬用部位：全草

薬効：消炎、去痰、消毒・鎮痛、更年期障害の緩和など

花言葉：迷信、秘密、盲信、恨みなど

名前の由来：花や葉をこすると出る赤い汁が、キリスト教の洗礼者ヨハネが斬首された時に流れ出た血の象徴とみなされていて、ヨハネの誕生日とされる聖ヨハネの日(6月24日)の頃までに花が咲き、伝統的にその日に収穫されていた事から名付けられた。

抗うつ薬として使う国もあり、地上部全体がハーブティーとして用いられ、ヨーロッパでは「ハッピーハーブ」という名前が親しまれています。また、シトクロムP450という薬物代謝酵素を誘導することも知られています。



「キンシバイ」

生薬名：芒種花(ボウシュカ) 薬用部位：全草

薬効：利尿 花言葉：悲しみを止める、秘密、煌き

名前の由来：黄色の雄しべを「金の糸」に、5弁の花の形が梅に似ている事から金糸梅(キンシバイ)と名付けられた。

キンシバイのことをヘベリカムと呼ぶことがありますが、ヘベリカムとは本来オトギリソウ属のラテン名のことで、必ずしもキンシバイのこととは限りません。悪魔よけの像の上に置くなど、ヘベリカムは魔女除けや悪魔除けに使われるそうです。



弟を切る草、オトギリソウの名の由来

オトギリソウは漢字では「弟切草」と書きます。これは、鷹匠兄弟の弟が秘密にしていた秘伝の鷹の傷薬である薬草(弟切草のこと)の存在を他人にばらしてしまい、怒った兄によって斬り殺されたという平安時代の伝説が由来となっています。このとき飛び散った血痕が葉や花びらにある黒い斑点になったとも言われていて、花言葉の「秘密」や「恨み」もこの伝説が元となっているようです。

弟切草を題材としたゲームもあり、タイトルはそのままズバリ、『弟切草』というサウンドノベルゲームです。このゲーム内では弟切草の花言葉は「復讐」となっていますが、実際に「復讐」という花言葉を持つ花はアザミ、トリカブト、シロツメクサなどです。「幸運」、「約束」という花言葉を持ち、幸せの象徴とされるシロツメクサニクローバーに「復讐」という花言葉もあるのは意外ですね。

オトギリソウの葉



アーティ
チョークの蕾

アーティチョーク、調理しました！！

6/11(火)にアーティチョークとチキンのサラダを作りました。
ガクの部分はドレッシングやタルタルソースをつけて、美味しくいただきました☆



アーティチョークと
チキンのサラダ



アーティチョークの
ガクの塩茹で